

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394000083		
法人名	社会福祉法人 鳳寿会		
事業所名	グループホームとみさか		
所在地	愛知県新城市富栄字東貝津18-1		
自己評価作成日	令和4年12月30日	評価結果市町村受理日	令和5年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigovosyoCd=2394000083-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれゆっくりとした時間が流れる中、心穏やかに過ごしていただけるよう心がけています。ご家庭で過ごされていた時のように、ここでも役割を持ち、ご利用者お一人お一人が得意な事や好きな事を自ら行って頂けるよう日々支援をしています。どの方も生き生きとした表情で、笑顔や笑い声が絶えません。今年は初挑戦で『とみさか味噌』をご利用者と一緒に作りました。秋口には五平もち会を開催し、とみさか味噌は豚汁にして味わいました。ここでは、当たり前の生活を共に楽しむことができます。また防災について学ぶ機会を持ち、火災予防の講話や、自施設の消火設備、避難方法などについて新城消防署員をお招きし、火災予防の勉強会を行いました。様々な視点から大切にご利用者やご家族をお守りできるように、そして安心して生活ができますよう日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【コロナウイルスの感染拡大防止の観点から、電話による聞き取り調査とした】
 法人理念である「忠恕(まごころ・おもいやり)の実践として、5点の重点目標を掲げている。重点目標に取り上げた5点は「利用者への寄り添い」、「地域との関わり」、「家族との連携」、「事故防止」、「職員育成」であり、それぞれに具体的な取組み内容が決められている。
 利用者だけでなく、家族も含めて支援することがホームの使命と考えており、手厚い家族対応を行っている。その姿勢を感じ取った家族から、アンケートを通してホーム(管理者、職員)に対する感謝や励ましの言葉が届いている。利用者、家族、職員が一体感を持って取り組む「食事会」の再開を心待ちにする家族も多い。一日も早く、コロナ禍の収束することを願わずにはいられない。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	年度当初に目標を設定し、会議にて周知している。日頃から意識出来るよう事務室に掲示している。ユニット目標も年2回評価し、次年度に繋げている	理念の実現を目指し、目標管理を行っている。重点目標の5項目に、「利用者への寄り添い」、「地域との関わり」、「家族との連携」、「事故防止」、「職員育成」を掲げて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍により地域の方との触れ合いの機会が減ったものの、散歩や外気浴の際には挨拶を交し良い関係が構築できている	コロナ禍によって、地域との交流や連携が中断している。町内会に加入しており、毎月発行しているホーム便り「峠の我が家」を、回覧板を通して地域に発信している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月、ご家族と地域の方へ広報誌を配布している。誌面を通して取り組みや防災訓練、日頃の支援の様子などを身近に感じて頂いている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況やホームの活動を報告している。また、地域の困りごとの相談があれば、活発な意見交換ができる場となっている。	昨年度の運営推進会議はすべて書面開催であったが、今年度は地域の集会所を借り受け、4回は対面で開催ができた。2回は書面開催であるが、会議メンバーには詳細な資料を送付している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて連絡を取り、助言をもらっている。また、可能な限り窓口に出向き、より協力が得られる関係を築けるように努めている。	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員が出席している。報告書の提出や運営推進会議の議事録を持参するなど、極力管理者が市役所の担当課に出向くようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人内の職員研修に参加したり、事業所内のOJTを通して定期的に学ぶ機会を作っている。また、自己点検シートで日頃のケアの振り返りをおこなっている	身体拘束適正化のための委員会を、3ヶ月に1度開催している。研修は、法人主催の研修に加えて、ホーム独自の研修も行っている。3ヶ月に1度、「自己点検シート」を使って自己チェックを行い、身体拘束のない支援を確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議で学ぶ機会を作っている。具体的な事例について一人ひとり考え意見交換を行っている。他職員の気づきを学ぶ良い機会となり虐待防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用した支援を行っていない為、職員全体に制度の理解度は乏しい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に親切丁寧な対応を心がけ、利用者や家族が分かりやすい説明をするように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族と連絡を取り要望を伺っている。可能な限り対応をさせていただいている。また、事務室にも意見箱を設置している	ホーム運営に協力的な家族が多く、家族アンケートには感謝や励ましの言葉が寄せられている。現在は制限付きの家族面会が行われているが、通常面会の再開を望む声が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場や、業務中であがる職員の声を傾聴したり、半年毎の個人面談で意見や提案などを聞いている。必要であれば法人本部に進言し、可能なものから改善している。	月に1度のユニット会議で話し合い、結論が出ない案件は職員会議(1度/月)で討議している。管理者を中心に、ホーム全体が意見を言いやすい雰囲気となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価シートにて個々の取り組む姿勢等を総合的に評価し、面談時に伝えている。また、個人ごとに目標を設定し、常に前向きに取り組めるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の習得レベルに合わせ、研修を受ける機会を作っている。また、受講環境にも配慮し学びやすい環境を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所とは連絡を取り合ったり、RUN伴のイベントで協力している。また、運営推進会議に出席し、情報交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今までの生活歴などを普段の会話の中で自然に取り入れ、本人の話しに耳を傾け寄り添うよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が安心して頂けるよう親身になって話しを聴き、信頼関係が築けるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が置かれている状況や思いと、家族の思いにズレがないかを確認し、支援が必要なもの、本人の力で可能なものを見極め対応が出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護するのではなく、まずは人生の先輩として色々教わったり、協力し合い、出来ない所はお手伝いをするようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族関係を把握し、事業所で出来る限りの面会や家族との繋がりが保てるように支援を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	以前からの馴染みの方との触れ合いが出来ていないが、職員が新聞などから地域の情報を得て話し、昔の話ができるようきっかけ作りをしている	コロナ禍によって、馴染みの人や場所の支援が止まっている。入居後に、お互いの趣味が一致した3名の男性利用者は「将棋仲間」となり、誘い合って将棋を楽しんでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席など、利用者同士の関係に配慮し、関わり合えるよう支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族の思い、立場や置かれている状況を把握した上で、本契約が終了しても相談ができる体制に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や行動、生活習慣の状況から本人の思いをくみ取るように努めている。困難な場合でも出来ないとは決めつけず、あらゆる可能性を探り意向の把握に努めている	利用者の意向には即時対応を基本とし、意向を叶える支援を実践している。「カップラーメンが食べたい」との希望があり、献立を変更してカップ麺を提供した。利用者には大好評であった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面談や、ケアマネ等からの情報提供を受け、これまでの生活歴や習慣、生活環境の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の変化や違いに気づいた事があれば、ADL評価表に記載し、現状の把握が出来るように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、状態変化や本人の意向が変割った時は担当者会議を開催し、介護計画の見直しをしている	介護支援専門員は、自らが考案した「興味・関心事シート」に加え、ICF(国際生活機能分類)を使って、より利用者の状態にあった介護計画を作成しようとしている。利用者に寄り添う前向きな姿勢がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議や、申し送りノートを活用し、細かな個人の情報を共有しながら支援の統一を図っている。介護計画の見直しにも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望や要望には常に対応できるよう予め家族から了承を得ておき、不満に繋がらないように早めに対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症の影響で、地域資源を活用できていないが、施設内での年中行事を通して楽しんで頂けるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診診療、必要に応じて協力病院を受診している。日頃から連携を密にし、体調に変化があった場合には、適切な医療が迅速に受けられるよう支援している	地域の医療機関を協力医とし、利用者全員がかかりつけ医として月に2回の訪問診療を受けている。歯科や眼科等の他科受診は、家族対応が原則である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小さな変化も見逃さないように注意し、また職員間でも情報共有し、受診の時適切な看護が受けられるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院ができるよう受け入れ態勢を整えるとともに、病院のワーカーとも連絡を取り合い、情報交換や退院に向けた相談をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、重度化した場合や終末期について、事業所として対応可能な事を説明したうえで、家族の意向を確認している。また、協力病院側にも家族の意向を伝えている	利用契約時に、ホームでの看取りをしないことを利用者、家族に説明して同意を得ている。継続して医療行為が必要となったり、要介護度が3以上となってホームでの生活に支障が出てきた時を、病院や他施設への移行の目安としている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時等にはマニュアルに沿った対応をする。また、事故防止員が中心となって実践力をつける為、全職員でロールプレイトレーニングを取り入れている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災委員が中心となって訓練を実施している。今年度は、新城消防署、鳳来分署の職員に来て頂き、火災予防についての講話と、事業所の防火設備や避難方法等の勉強会をおこなった	毎月防災訓練を行い、今年度は消防署と分署から職員を招聘した。防災に関する講話を聴き、ホームの防災上での課題や問題点の指摘を受けた。	避難訓練の様子を写真で見ると、利用者は防災頭巾をかぶっているが、職員は無防備である。職員の頭部を保護するヘルメット等を備えることが望ましい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に尊敬の念を持った対応を心がけているが、出来ていないときがあるので、そのような場合にはユニット会議で改善できるよう取り組んでいる	法人理念である「忠恕」(まごころ・おもいやりの)の精神に沿い、「プライバシー保護マニュアル」が作成されている。トイレ介助や入浴支援時に不適切な言動があれば、管理者がその場で注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中で本人の希望聞き、職員間で情報を共有し、利用者の思いに寄り添った支援をしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事は利用者の日課となっており、互いに協力しながら行っている。また、個別の空間や個々の生活ペースを大切にしながらも孤立しないよう配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝、髭剃りや髪を整えたり、2か月に1回の出張理容を利用したり、普段から好まれるスタイルを取り入れ、その人らしさが表出できるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者間で日替わりで担当を変え、食事の準備や片づけを行っている。職員がトラブルにならないよう間に入り一緒に行うようにしている	元気な利用者が揃い、食事に関する手伝いに争いが起きる程である。その解決策として、現在は当番制をとっている。コロナ禍前のように、家族参加の食事会が再開されることを願う家族も多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が少ない利用者には声掛けをし、摂取出来ない場合はゼリーや牛乳など好きな物を提供している。定期的に食事の提供量や形態を見直している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、月・木曜日には義歯洗浄剤を使用して衛生面に気をつけている。磨き残しがないか確認し、必要なら手直しをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、声かけを行っている。オムツ対応者がいない為、なるべくトイレで排泄ができるよう支援している	布パンツで過ごす排泄の自立度の高い利用者もあり、全員がトイレで排泄している。ポータブルトイレを使う利用者はなく、夜間もトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝、食事前に牛乳を提供し自然な排便に繋げている。また、レクリエーションの一つとして、運動も毎日行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴をしている。気分が乗らない方には時間を変えたり、津用意拒否がある場合は無理強いせず衣類交換など柔軟に対応している	利用者は、週に3日の入浴機会がある。入浴を好まず、2~3週間風呂に入らない利用者があるが、無理強いせず、職員は気長に声掛けを行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中好きな時に自室で休めるようにしている。夜間不安を覚える方にはTVを点けたままにするなど一人一人にあった支援を心掛けている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の既往歴や現病を把握し、処方薬を確認している。服薬中に変化が見られた場合は医師に伝え指示を受け対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の嗜好品が楽しめるように対応している。また、本人が得意とする事や自信を持って行える事が楽しみながら出来るよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回程度の車窓ドライブ、中庭での外気浴や、ホーム周辺の散歩をして気分転換を図っている。また、必要に応じ家族の協力のもと病院受診に出掛けている	コロナの感染状況を見ながら、散歩とドライブ中心の外出を支援している。春はホームの周りの桜が咲きほこり、利用者は手作りの花見弁当に舌鼓を打った。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭管理を行わない為お金を使用する機会がない。契約時に説明し同意を得ている。お金を所持する事で安心する方には、紛失等のリスクがある事を承諾いただき所持を認めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で家族に連絡をする時、電話でやり取りができるようにしている。また、家族に個人写真を渡すなどして、ホームでの様子が分かるようにしている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは掃除、消毒を常に行っている。壁面には、利用者が作った作品や、行事を行った時の写真を飾り楽しめるようにしている	新型コロナウイルスへの感染防止の観点から、今年度は電話による聞き取り調査としたため、この項目のコメントはなし。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事などの席では、気の合う利用者同士で配置をするようにしている。職員が間に入り、トラブルにならないようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の気持ちに寄り添いながら、居室に家族の写真や飾り、使い慣れた家具を置き、落ち着いて過ごせる空間作りをしている	新型コロナウイルスへの感染防止の観点から、今年度は電話による聞き取り調査としたため、この項目のコメントはなし。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレは案内表示をして分かりやすくしている。また、杖やシルバーカーを使用しても安全に移動ができるようにしている		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2394000083		
法人名	社会福祉法人 鳳寿会		
事業所名	グループホームとみさか B		
所在地	愛知県新城市富栄字東貝津18-1		
自己評価作成日	令和4年12月30日	評価結果市町村受理日	令和5年2月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2394000083-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和5年1月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれゆっくりとした時間が流れる中、心穏やかに過ごしていただけるよう心がけています。ご家庭で過ごされていた時のように、ここでも役割を持ち、ご利用者お一人お一人が得意な事や好きな事を自ら行って頂けるよう日々支援をしています。どの方も生き生きとした表情で、笑顔や笑い声が絶えません。今年初挑戦で『とみさか味噌』をご利用者と一緒に作りました。秋口には五平もち会を開催し、とみさか味噌は豚汁にして味わいました。ここでは、当たり前の生活を共に楽しむことができます。また防災について学ぶ機会を持ち、火災予防の講話や、自施設の消火設備、避難方法などについて新城消防署員をお招きし、火災予防の勉強会を行いました。様々な視点から大切にご利用者やご家族をお守りできるように、そして安心して生活ができますよう日々取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--	--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	介護理念を重点目標とし、常に確認が出来るよう事務室内に掲示している、取り組みを明確にし半期ごとに振り分けを行い、次年度に繋げている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	外気浴や散歩など、地域の方と顔を合わせた時には、気持ちの良いあいさつをするように心掛けている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎月広報誌を発行し、日頃の生活が分かるよう、また事業所の取り組みを知って頂けるよう回覧板で回している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況や事業所の取り組み等を報告し、委員の方から頂いた意見をサービスに活かせるようにしている。また、互いに協力が出来る体制を確認している。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて連絡を取ったり、市役所窓口に出向く等し顔が見える関係を築けるようにしている。また市で取り組んでいる事業には、可能な範囲で協力するようにしている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員研修等で意識づけをし、更に事業所独自の自己点検シート、事例検討シートを作成し、日々のケアの見直しができる機会を作っている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議の時間を活用し、日々のケアの中で起こり得る些細な事柄を例にあげ、職員間で共有し、防止に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用した支援を行っていない為、職員全体に制度の理解度は乏しい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	常に親切丁寧な対応を心がけ、利用者や家族が分かりやすい説明をするように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に家族と連絡を取り、要望等を伺っている。対応可能なものは即座にサービスに反映している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の場や、業務中であがる職員の声を傾聴したり、半年毎の個人面談で意見や提案などを聞いている。必要であれば法人本部に進言し、可能なものから改善している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価シートにて個々の取り組む姿勢等を総合的に評価し、面談時に伝えている。また、個人ごとに目標を設定し、常に前向きに取り組めるようにしている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の習得レベルに合わせ、研修を受ける機会を作っている。また、受講環境にも配慮し学びやすい環境を作っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の事業所とは連絡を取り合ったり、RUN伴のイベントで協力している。また、運営推進会議に出席し、情報交換をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者会議を行い、普段の生活での会話や行動等から本人の思いをくみ取り、支援に繋げている。何でも話してもらえ関係が築けるように努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族のこれまでの思いを大事にし、しっかり話を伺うようにしている。また、現在の課題を含め、将来的な課題にも対応できるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が置かれている状況や思いと、家族の思いにズレがないかを確認し、支援が必要なもの、本人の力で可能なものを見極め対応が出来るように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常の暮らしの中では常に決定権は本人とし、その意思、思いに寄り添うようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月1回の近況報告と、体調変化等があった時には連絡をし状況を伝えている。他科受診時には家族に付き添いを依頼し、協力を得ている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や、年賀状等で交流を図り、関係が途切れないようにしている。また、車窓ドライブでは馴染みじみのある場所へ出掛けるようにしている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士で協力し合える作業をおこなったり、日常の作業についても、一人に偏らないよう配慮したり、座席の工夫をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人・家族の思い、立場や置かれている状況を把握した上で、本契約が終了しても相談ができる体制に努めている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の会話や行動、生活習慣の状況から本人の思いをくみ取るように努めている。困難な場合でも出来ない決めつけず、あらゆる可能性を探り意向の把握に努めている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時の面談や、ケアマネ等からの情報提供を受け、これまでの生活歴や習慣、生活環境の把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の関わりや支援方法、記録などから職員間で情報を共有し、本人の現状を把握するよう努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	更新、変更等があった場合は担当者会議を開催し、本人、家族の意向を反映し現状にあった介護計画を作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議や、申し送りノートを活用し、細かな個人の情報を共有しながら支援の統一を図っている。介護計画の見直しにも生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望や要望には常に対応できるように予め家族から了承を得ておき、不満に繋がらないように早めに対応している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染症の影響で、地域資源を活用できていないが、施設内での年中行事を通して楽しんで頂けるよう努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診診療、必要に応じて協力病院を受診している。日頃から連携を密にし、体調に変化があった場合には、適切な医療が迅速に受けられるよう支援している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	往診診療時に状況を報告したり、日頃のケアで判断に迷う時には随時相談をしている。また、家族からの意向を伝え、適切な看護を受けられるよう支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	早期退院ができるよう受け入れ態勢を整えるとともに、病院のワーカーとも連絡を取り合い、情報交換や退院に向けた相談をしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に、重度化した場合や終末期について、事業所として対応可能な事を説明したうえで、家族の意向を確認している。また、協力病院側にも家族の意向を伝えている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時には、全職員が事業所のマニュアルに沿った対応ができるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月防災委員が中心となって訓練を実施している。今年度は、新城消防署、鳳来分署の職員に来て頂き、火災予防についての講話と、事業所の防火設備や避難方法等の勉強会をおこなった		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合わせた言葉を選び、親しみの中にも敬いの気持ちを持った対応を心がけている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	行動パターンや、日常の会話などから本人の思いをくみ取り、自己決定ができるよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	家事は利用者の日課となっており、互いに協力しながら行っている。また、個別の空間や個々の生活ペースを大切にしながらも孤立しないよう配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2か月に1回の出張理容を利用したり、普段から好まれるスタイルを取り入れ、その人らしさが表出できるよう支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	要望を聞きながら、献立を一緒に考えるようにしている。調理から片付けまで、職員とともにしている。感染リスクを減らす為、現在は利用者と職員は別で食事を摂っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量や食事形態を把握し、食べる楽しみに繋がるよう支援している。食事以外でもいつでも水分が摂れるよう準備をしておき、声掛けをしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを行い、義歯のある方は夜間帯に消毒液につけている。物品は週に1度消毒・熱乾燥し、歯ブラシは月1回交換して衛生面に気をつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄状態に合わせて対応している。夜間帯でも、なるべくトイレで排泄ができるよう支援している		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表を活用し、排便の有無を確認している。自然排便に繋がるよ牛乳を提供したり、体を動かすようにしている。便秘の方には医師の診断の元内服で排便のコントロールしている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人週3回入浴している。体調不良時や拒否が強い場合には無理強いせず、曜日や時間をずらす等して柔軟に対応している		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室でゆっくりできる時間を設けたり、日中は活動を多くし、夜間の安眠に繋がるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	本人の既往歴や現病を把握し、処方薬を確認している。服薬中に変化が見られた場合は医師に伝え指示を受け対応している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の嗜好品が楽しめるように対応している。また、本人が得意とする事や自信を持って行える事が出来るよう支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	中庭での外気浴や、ホーム周辺の散歩をして気分転換を図っている。また、必要に応じ家族の協力のもと病院受診に出掛けている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則、金銭管理を行わない為お金を使用する機会がない。契約時に説明し同意を得ている。お金を所持する事で安心する方には、紛失等のリスクがある事を承諾いただき所持を認めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	担当職員からの近況報告・希望があれば電話の取り次ぎをしている。職員と一緒に年賀状を作り家族に送っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは掃除、消毒を常に行っている。壁面には、利用者が作った作品や、行事を行った時の写真を飾り楽しめるようにしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で話をしたり、椅子を並べてテレビを見ている。思い思いの時間が過ごせるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使っていた家具、テレビ、思い出の写真等自由に持ち込まれ、自分だけの空間にできる部屋にしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレは案内表示をして分かりやすくしている。また、杖やシルバーカーを使用しても安全に移動ができるようにしている		